

地域キャリア教育支援協議会設置促進事業

平成27年度予算額：30百万円【継続】

若者の完全失業率、
非正規雇用率の高さ、
無業者や早期離職者の存在

職業人としての
基本的な能力の低下や、
職業意識・職業観の未熟さ

進路意識や目的意識が
希薄なまま
進学する者の増加

**学校、家庭、地域・社会、企業、経済団体等が
互いに役割を認識し、一体となった取組が重要**

中央教育審議会答申『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』 (平成23年1月31日中央教育審議会答申)からの抜粋

「(前略)PTA、校長会、自治会、経済団体・職能団体や労働組合等の関係機関、NPO等の協力を得て協議会を設置するなど、地域・社会で取り組んで円滑に進めている事例がある。学校種を越えて地域の学校と地域・社会や産業界との効果的な連携の促進が期待されることとあり、少なくともこのような取組を各地域・社会で構築していくことが必要である。」

<地域キャリア教育支援協議会>



情報
集約

地域・社会や産業界等の学校の外にある教育資源による学校教育支援の提案と、学校からの支援の要望とのマッチングを図るための文部科学省特設サイト「子どもと社会の架け橋となるポータルサイト」の活用

<地域キャリア教育支援協議会での 実施が考えられる主な具体的取組例>

○学校外部による出前授業等の教育活動支援の促進、キャリア教育に関する外部専門人材のマッチング

学校において体験的な学習の機会を拡充する観点等から、各企業・団体等が自身の持ち味を活かした出張授業など学校教育支援プログラムや、学校と地域・社会や産業界とを結びつけるコーディネーター人材やキャリアコンサルタント、就職支援の仕組みや労働法制等を講義する者などとのマッチングを図る。

○職場体験・インターンシップ受入れ先の開拓やマッチング

中・高校では職場体験・インターンシップの受入れ確保に困難を抱えており、地域・社会や産業界等による社会一体となった支援の一層の拡充が必要であることから、受入れ先の開拓やマッチングを図る。

○職場体験・インターンシップ受入経験のない中小企業等へのノウハウ提供

将来的な中小企業との就業ミスマッチを予防する観点から、職業体験・インターンシップ受入経験のある企業が受入れ経験を持たない中小企業に対してノウハウを提供。

子どもたち一人一人の社会的・職業的自立に向けて